



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学ピア・サポートの新展開 : つながり創出型ピア・サポートシステムの試み
Author(s)	岡本, 健
Relation	第4回「ぴあのわ」. 2011年1月8日. 名古屋工業大学, 名古屋市.
Issue Date	2011-01-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44657
Type	lecture
File Information	handout_1.pdf, 配布資料1



北海道大学ピア・サポートの新展開 —つながり創出型ピア・サポートシステムの試み—

第4回「びあのわ」

2011年1月7日
於：名古屋工業大学

配布資料

北海道大学ピア・サポート学生代表
岡本健

北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻 博士後期課程
北海道大学 観光学高等研究センター リサーチアシスタント
大阪観光大学 観光学研究所 客員研究員
okamotot@cats.hokudai.ac.jp

本日のコンテンツ

- ①活動報告
 - 1. 北大ピア・サポートの概要
 - 2. 本活
 - 3. 活動の発表
 - 4. 引っ越し
- ②広報の提案
- ③今後の活動の指針

①-1. 北大ピア・サポートの概要


☆ピア・サポーターが、学生からの相談を受け、その解決をはかる、あるいは、解決が可能な組織を紹介することが主たる業務

☆ピア・サポーターの構成

- ・学部生：6人(男性3人、女性3人)
- ・大学院生：5人(男性2人、女性3人)

☆2009年11月に試行、
2010年4月より本格稼働

☆ボランティア相談室を
間借りしていたが、2010年10月より専用の部屋に移転



ピア・サポート室の様子

『学生同士のピア・サポート』北海道大学高等教育機能開発総合センター Newsletter No.82 pp.4-5
<http://soco.yo.hokudai.ac.jp/cnews/82.pdf>

①-1. 北大ピア・サポートの概要

相談業務の実際-1

表1. 相談人数(単位:人)

2010年4月	15
2010年5月	4
2010年6月	3
2010年7月	1

他大でも課題とされている 利用者減によるメンバーのモチベーション低下が問題

本当に悩みが少ないのであればこんなに素晴らしいことは無いが、実際はそうではない。

表2. 相談者の学部と学年(単位:人)

	学部1年	修士1年	合計
工学部	5	0	5
文学部	1	2	3
医学部	2	0	2
合計	8	2	10

工学部、文学部、医学部のみ
学部1年、修士1年など、新入年度のみ

①-1. 北大ピア・サポートの概要

相談業務の実際-2

表3. 相談内容と相談数(単位:人)

相談内容	相談数
道案内	6
履修	5
アルバイト	3
授業	2
ボランティア	2
サークル	2
学生生活全般	1
資格・試験	1
その他	1

表4. 相談者の滞在時間

	min
最小値	1
最大値	90
平均値	19.9
標準偏差	24.2

n = 19

相談内容は多様。また、じっくりと話しているうちに様々な悩みの掘り起しができる場合も。つまり、来室していないが、悩みを抱えていたり、悩みの種はあるが、無意識にしまっている可能性も。

①-2. 本活

交流創出イベント「本活」を実施

企画の背景

♪ピア・サポートの広報として(組織と場所の周知)

♪ピア・サポーターの実地訓練の場として
(サポーターのコミュニケーション能力の向上)

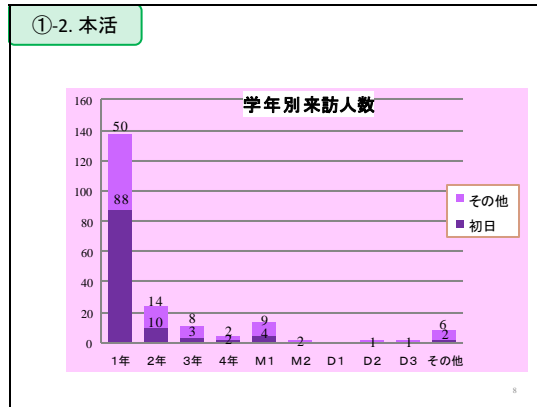
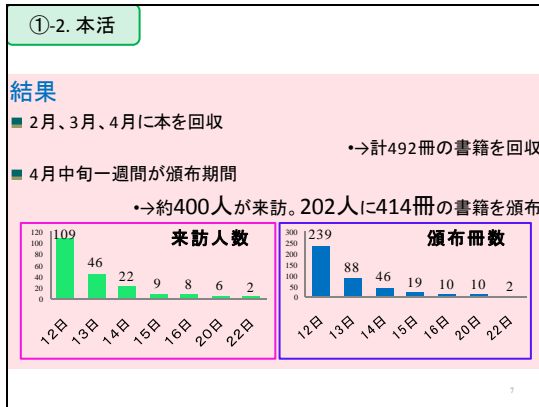
♪学生のサポートニーズに関するデータ収集として
(聞き取りおよびアンケート調査)

実施概要

♪いらなくなった本を回収し、これから使う学生に受け渡し

♪本の回収時には、文房具等と交換

♪本の頒布は無料、ただし、アンケート記入を必須



①-2. 本活

- 2月、3月、4月に本を回収
→計492冊の書籍を回収
- 4月中旬一週間が頒布期間
→約400人が来訪。202人に414冊の書籍を頒布

・予想を上回る来場者数
・本を通してコミュニケーションが促進される
・立ち話であっても、軽い相談を解決することができた
・ピア・サポートの周知
・ピア・サポーターのモチベーションアップ

①-2. 本活

何をきっかけに本活を知りましたか？

紙媒体	クラオリバック	ポスター	不明
	24	25	79
人づて	56		
たまたま通りかかった	12		
不明・その他	11		

紙媒体: 128

人づて: 56

たまたま通りかかった: 12

不明・その他: 11

宣伝の直接効果
→新入生全員の手に渡る媒体(クラオリバック)に情報が流れたのは大きい

間接的効果
→うわざになりやすいような内容のイベントであったと考えられる。教科書効果が大きい。

- ①-2. 本活
- 本を選んだ理由は何ですか？
- ① 授業に必要な教科書だから
 - ② 今後、専門分野の参考になりそうだから
 - ③ 語学・資格の勉強のために
 - ④ 趣味(小説の内容に興味があったから 等)
- ① 教科書のニーズが高い。
- ② 学習や趣味、資格などの自分の成長に資する動機。

①-2. 本活

「学生生活で力を注ぎたいこと」		「学生生活で不安なこと」	
学習面	127 62.9%	勉強	58 28.7%
課外活動(部活・サークル)	62 30.7%	生活全般	32 15.8%
アルバイト	16 7.9%	金銭	17 8.4%
読書	7 3.5%	進路	15 7.4%
生活	5 2.5%	大学生活	14 6.9%
資格取得	3 1.5%	人間関係	12 5.9%
その他	46 22.8%	その他・不明	27 13.4%
無記入	13 6.4%	ない	20 9.9%
		無記入	22 10.9%

学習面に関して力を注ぎたいが不安、という現状が見えた。

不安なことが無いという人は1割程度しかいない。

①-3活動の報告

2010年2月10日 『「びあのわ」報告会』 於:情報教育館【内容は次のスライド】
→関わってくださっている先生方、教務学生支援課の方々、ピアメンバー

2010年8月16日 岡本健・平侑子「ピア・サポート活動報告会」 於:情報教育館
→関わってくださっている先生方、教務学生支援課の方々、ピアメンバー

2010年8月20日
日吉大輔・岡本健(2010)「アカデミック・サポートとピア・サポートによる学習支援」
『平成22年度IDE大学セミナー』
【ダウンロードURL】 <http://hdl.handle.net/2115/43898>
→主に道内の大学の総長や学長、様々なサポート活動の先進的取り組みの紹介

2010年11月04日 岡本健「新ピア・サポート室開室に当たって ―ピア・サポートのこれまでの活動と今後の展望―」『新ピア・サポート室開室記念お披露目式』
於:新ピア・サポート室
→副学長、教務学生支援課の方々、ピアメンバー

13

①-3活動の報告 報告会内容

1. 「びあのわ」参加記(発表者:岡本健)

2. 「びあのわ」に参加して

(発表者:藤原美津穂、奥塚哲史、厨川知彦)

3. 「びあのわ」参加者への質問

(質問者:高橋修平、浦家奈々、青柳祥子)

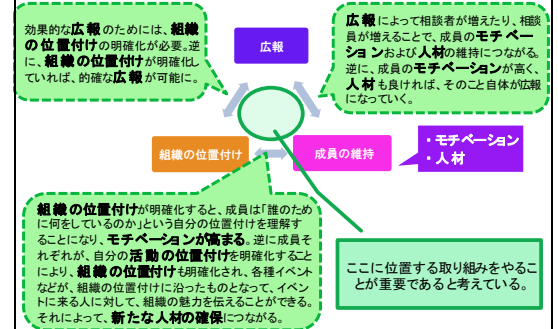
4. 会場の皆様からの質問

5. 「本活」の概要と進捗状況

(発表者:藤原美津穂)

6. 「本活」に関する議論

③今後の活動の指針



15